

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会  
2009年秋の大会 総会議事  
(2009年9月18日(金) 12時～13時 A会場 共通講義等 第1講義室)

議 事 次 第

進行：山澤委員

1. 部会長挨拶 米原部会長
2. 動向概要と運営委員会体制(資料1, 資料2) 山澤委員
3. 保健物理・環境科学部会のwebページについて(資料3) (石森委員)横山委員
4. 2010年春の年会JCOセッション企画提案について(資料4)飯本委員
5. 部会企画について(資料5, 参考資料) 永井委員
6. 部会主催・共催シンポジウム等 (小池委員)横山委員
7. 連載企画について(資料4) 米原部会
8. ポジションステートメントについて 米原部会長
9. 委員会等報告 各担当委員
9. その他  
中学校への放射線理科教育の支援活動 宮川委員
10. 閉会挨拶

以上

## 前回総会以降の動き（総務関係）

- 4月30日 活動報告の提出（様式1-1-1）
- 4-5月 部会からの編集委員の交代 床次 森泉  
 梓組み委員の交代 植頭 塚田  
 運営委員の追加（暫定） 柿内（環境科研）  
 9月総会で承認予定
- 部会渉外担当の交替 塚田 柿内
- 7月 原子力安全功労者表彰推薦  
 学会事務局から1週間後の締切で推薦依頼  
 運営委員会で、推薦候補者の推薦と投票で対応  
 来年度以降も推薦依頼がある模様（もっと余裕のある形で？）
- 3月まで 次期（2010-2011年度）体制の立案

=====

様式 1 1 1

（保健物理・環境科学）部会 平成20年度活動報告書  
 （提出期限：翌年度4月30日（木））

1. 部会員・連絡会員数（239）名（平成21年4月現在）
2. 当該年度予算（199,750）円
3. 新年度運営体制  
運営委員リストおよび全会員リストは「別紙1」および「別紙2」のとおり  
 （次期改選予定時期：平成22年3月（1期 2年））
4. 大会/年会における部会・連絡会企画等の開催状況
  - （1）秋の大会  
 セッション名「ICRP2007年勧告のインパクト」（開催時間：90分）  
 開催日：9月5日（金） 会場名：J会場  
 主催 / 共催（部会・連絡会・専門委員会が主催）  
 参加者数：79名
  - （2）春の年会  
 セッション名「ヨウ素129の測定技術の現状と環境中移行研究への応用」  
 （開催時間：90分）  
 開催日：3月25日（水） 会場名：I会場  
 主催 / 共催（部会・連絡会・専門委員会が主催）

参加者数： 約 60 名

5. 国内会議 / 国際会議 / セミナー / シンポジウム / 勉強会等の開催状況

(1) 企画名「炭素-14 の環境中循環に関する研究会」

(第2回 保健物理・環境科学部会 炭素 14 環境移行研究連絡会)

開催日： 20年12月15日(月) 会場：放射線医学総合研究所 講堂

主催 / 共催(放射線医学総合研究所が主催)

参加者数： 約 40 名

プログラムは「別紙3」のとおり

(2) 企画名「第10回環境放射能研究会」

開催日： 20年12月15日(月) 会場： KEK セミナーホール

主催 / 共催(環境放射能研究会が主催)

参加者数： 約 90 名

プログラムは「別紙4」のとおり

6. 成果の出版物掲載(部会・連絡会活動としての特集記事、特別寄稿、出版物など)

(1) 本会学会誌「アトモス」掲載

2009年 4月号 p.74 ~ 77

タイトル「保健物理・環境科学部会の活動と今後の展開」

(2) セミナーテキスト

発行日： 年 月 日 発行部数： 部

(3) 部会報・連絡会報

年 回発行 発行時期： 月, 月

冊子体 発行部数： 部 / CD-ROM 発行部数： 部 / HP 掲載

(4) その他

7. その他の特記すべき活動(部会賞授与等を含む)

(1) ポジションステートメント「低レベル放射線の環境影響」を策定した。

(2) 日本原子力学会編纂の教科書として、「放射線防護(仮題)」の執筆を開始した。

(3) 国際会議「9<sup>th</sup> Natural Radiation Environment」の2011年日本開催について、部会が後援することとし、準備作業への協力を開始した。

以上

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会  
第5期(2008-2009)、学会委員等名簿

## 【役員】

部会長：米原英典（放医研）  
副部会長：占部逸正（福山大） 外川織彦（原子力機構）  
会計監査：宮川俊晴（原燃）

## 【運営委員】

飯田孝夫（名大） 飯本武志（東大） 石森有（原子力機構） 植頭康裕（原子力機構）  
内田滋夫（放医研） 占部逸正（福山大） 柿内秀樹（環境科研） 木名瀬栄（原子力機構）  
栗原治（放医研） 小嵐淳（原子力機構） 小池裕也（東大） 小佐古敏荘（東大）  
杉浦紳之（近大） 高田千恵（原子力機構） 高橋知之（京大） 竹安正則（原子力機構）  
塚田祥文（環境科研） 外川織彦（原子力機構） 床次眞司（放医研） 永井晴康（原子力機構）  
橋本周（原子力機構） 服部隆利（電中研） ニッ川章二（RI協会） 本間俊充（原子力機構）  
三浦太一（高工研） 宮川俊晴（日本原燃） 宮崎振一郎（関電） 百瀬琢磨（原子力機構）  
森泉純（名大） 山澤弘実（名大） 山西弘城（核融合研） 横山須美（藤田保健衛生大）  
米原英典（放医研）

## 【学会委員】

代議員	飯田孝夫（名大）	2008～2009年度
	本間俊充（原子力機構）	2008～2009年度
部会等運営委員	飯本武志（東大）	2007～2009年度
学会誌編集委員	高橋知之（京大）	2007～2009年度
	三浦太一（高工研）	2007～2009年度
	木名瀬栄（原子力機構）	2008～2010年度
	森泉純（名大）	2008～2010年度？
学会プログラム委員	永井晴康（原子力機構）	2007～2009年度
	高田千恵（原子力機構）	2009～2011年度
	横山須美（藤田保健衛生大）	2008～2010年度
枠組み編成委員	塚田祥文（環境科研）	2009～2011年度？
日韓サマースクール運営連絡会担当	飯本武志（東大）	2005～未定

## 【第5期部会内担当委員】

総務担当：山澤弘実、横山須美（運営委員会及び総会運営、その他雑務）  
会計担当：栗原治、森泉純（会計）  
渉外担当：小池裕也、柿内秀樹（学会事務局、他学協会、他部会等との連絡調整等）  
企画担当：山西弘城、永井晴康（部会企画の立案、運営、プログラム作成等）  
広報担当：石森有、竹安正則（HP、メーリングリスト管理、部会ニュース作成等）  
組織担当：橋本周、ニッ川章二（投稿論文、学会発表の勧誘、部会員の増強）

保健物理・環境科学部会の web ページについて（案）

平成 21 年 9 月 17 日

石森

今期は部会として組織的な対応が出来るような仕組み作りを目標にして取り組みをしているところ。

1 . 前回報告の通り、学会事務局 HP 担当者に以下の検討を依頼したが、現状進捗していない（但し、学会事務局は本件について積極的でない）。

（ 1 ）保健物理・環境科学部会の web ページの更新作業をパスワードの取得等により担当幹事委員が直接できるよう依頼した。

（ 2 ）公開前に運営委員間で確認可能なように、隠し URL 等を設けることを依頼した。

2 . web ページの現状については、添付資料の通りである。

（ 1 ）以下の部分について更新が必要。

- ・ 第 5 期委員名簿、米原部会長の挨拶の追加。
- ・ 年会、大会企画等に関する情報（平成 17 年以降がない）。  
どこまでやるのか？（継続性の観点等からも議論が必要）。
- ・ リンクの貼り直し（「核燃料サイクル開発機構」など）。

（ 2 ）web に掲載すべき情報の交通整理

- ・ 掲載の可否を判断する部署が必要。総務で情報整理？
- ・ 素材がそろえば、ページの修正、更新等は 1 分 / 1 件程度で、広報にて充分作業実施可能。
- ・ ページの修正終了後、学会事務局に更新を依頼。

以 上

平成 21 年 9 月 7 日

(社)日本原子力学会  
部会長各位  
連絡会長各位

(社)日本原子力学会  
部会等運営委員会  
委員長 佐藤 正知

謹啓 初秋の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本年 9 月 30 日で JCO の事故発生から丸 10 年を迎えます。(社)日本原子力学会では、来年 3 月に茨城大学を会場にして「2010 年春の年会」を開催致しますが、これを機会に JCO 事故 10 周年に関する企画セッションを開催することと致しました。ついては、年会・大会を管轄し、学会の 17 部会 5 連絡会からなる部会等運営委員会が窓口となって企画立案に係わることになりました。

JCO 事故 10 周年の企画を考える場合、学術的側面と社会的側面があります。学会員 7000 人からなる様々な分野の専門家を擁する原子力学会であることから、関連分野の専門家を集めての講演会やパネル討論といった取り組みもあろうかと考えます。企画セッションは最長 90 分が原則ですが、各部会等からの企画提案について今回は特別に 13:00 から 17:00 まで 4 時間を確保し、前半を第一部・学術的側面、後半を第 2 部社会的側面と捉え(提案書が出る前の段階での考え方)全体として JCO 事故から何を学ぶかについて浮き彫りに出来ればと考えています。別紙に、小職がとりあえず整理したもので参考になるかどうか分かりませんが、学会におけるこれまでの JCO 事故に対する活動を時系列で記載し添付致します。

なお部会等への今回の企画依頼とは別に、2006 年春の設立以来 3 年半近くにわたり JCO 事故調査委員会(2000 年 12 月発足、主査・成合副会長(当時))の活動によって得られた教訓を国際的な場で検討して広く世界的な資料とすべく、日本での調査活動の成果を海外に伝えるための作業を支援して来られた「JCO 臨界事故国際調査協力」特別専門委員会(主査 田中俊一様)宛てにも企画提案のお願いを致しております。

趣旨をご理解いただき、**10月5日(月)**までに原子力学会事務局宛て、貴部会の企画を送って頂きたく、宜しくお願い申し上げます。なお、各部会からの提案書が出揃った段階で適宜取りまとめるとともに、学会の理事会等に報告し了解を得ながら進めていく所存です。お忙しい折、お世話になりますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

謹白

「日本原子力学会誌」 連載講座 記事提案書

(2009年8月 日)

連載講座名	「新しいICRP」 - 新しい放射線防護の考え方と基準 -
全体概要	2007年にICRPの勧告が16年ぶりに改訂されたが、それを機に、放射線防護の経緯を紹介し、その基礎的な考え方を解説するとともに、最新の科学的知見をレビューし、新勧告の内容が、原稿の1990年勧告からどのように変わったのかについて、わかりやすく解説する。また、具体的な防護基準としてIAEAが、他の国際機関と共同で発行する基本安全基準(BSS)も改訂作業中でこの内容についても紹介する。

連載責任者(複数可)	責任者所属	責任者 e-mail	責任者電話
三浦太一 米原英典	高エネ研 放医研	miurat@post.kek.jp yonehara@nirs.go.jp	

注) 連載責任者は、各回の内容が同じ程度に分かり易さであるか、原稿の配置が適切であるか、ページ数制限が守られているか、を確認してください。

回数	副タイトル	概要	執筆者(複数可)	執筆者所属	執筆者 e-mail	執筆者電話	学会への原稿提出期限	掲載予定号	記事番号
第1回	ICRPの歴史と現状とBSSの状況	これまでの放射線防護の概念がどのように生まれ、どのように変遷してきたかを解説する。	小佐古敏荘	東京大学	kosako@nuclear.jp		学会事務局が記入します。	学会事務局が記入します。	学会事務局が記入します。
第2回	放射線防護の生物学的側面	放射線の身体影響に関して、現在の最新の放射線生物学と疫学調査	保田浩志	放射線医学総合研究所	h_yasuda@nirs.go.jp				

回	面と線量評価量	による放射線リスク研究のレビューをするとともに、安全基準の根拠、線量の定義などを 1990 年勧告と新勧告を比較して解説する。							
第 3 回	放射線防護の基礎（防護体系原則）	放射線防護の基礎の概説と放射線防護体系、被ばくの区分について、中心に解説する。	杉浦 紳之	近畿大学	nsugiura@kindai.ac.jp				
第 4 回	計画被ばく（線量拘束値、履行）	計画被ばくについて、法令取り入れを考える上で最も重要な安全基準に関わる変更点について解説する。	服部 隆利	（財）電力中央研究所	thattori@criepi.denken.or.jp				
第 5 回	緊急時被ばく	緊急時被ばく状況についての放射線防護の考え方や、参考レベル等の規準について解説する。	本間 俊充	日本原子力研究開発機構	homma.toshimitsu@jaea.go.jp				
第 6 回	現存被ばく	現存被ばく状況についての放射線防護の考え方や参考レベルなどの規準について解説する。	飯本 武志	東京大学	t-iimoto@adm.u-tokyo.ac.jp				
第 7 回	環境防護	環境防護の基本的な考え方や規準の検討状況について	酒井：非学会員	放射線医学総合研究所	kazsakai@nirs.go.jp				
第 8 回	BSS	ICRP 新勧告を受けて、改定作業中の BSS の概要を解説する。	米原 英典	放射線医学総合研究所	yonehara@nirs.go.jp				

注) 適宜、行を追加してください。

注) 原稿はテンプレートを使用し、camera ready 状態でタイトル、執筆者写真など全てを含めて 5 ページ以内であることを確認してください。

## 2010年春の年会以降の部会企画等について

2010年春(at 茨城大)の部会企画は、順番では「環境科学」の内容となっている。

企画案提出期限：10月30日

部会企画に対する意見：

- ・時々一般公開の企画を行うことにより集客数を増やすことも重要。
- ・一般公開に適した内容として「北朝鮮関係や地震起因の防災」、「放射線のリスクコミュニケーション」が候補として考えられる。また、北朝鮮関係として「WSPEEDI-」が考えられる。

参考：これまでに提案された企画案

- ・「地震、事故・トラブル、テロ等による放射能(線)放出時に対する緊急時対応」  
連携：社会・環境部会、原子力安全部会？  
概要：地震、事故・トラブル、あるいはテロ等により、放射能(線)が放出される場合に対する緊急時対応の現状について議論したい。
- ・「放射線のリスクコミュニケーション」  
連携：社会・環境部会  
概要：リスクコミュニケーションにおいて重要になる、一般公衆の放射線に関する知識構造について、議論したい。
- ・「国際宇宙ステーションの進展と宇宙飛行士の被ばく」  
連携：放射線工学部会  
概要：国際宇宙ステーションの今後の進展について紹介していただくとともに、宇宙飛行士の被ばくに着目して、線量測定や線量制限の考え方について、議論したい。
- ・[モニタリング]  
概要：1) モニタリング指針の改定、2) 原子力施設周辺のモニタリングの現状、3) 降雨による異常線量上昇、4) 気象指針の改定
- ・[防災・緊急時対応]  
連携：社会・環境部会  
概要：1) 防災指針、2) 緊急時モニタリング指針の改定(一例としてヨウ素の取り込み20%を考慮した場合の線量係数)、3) 緊急時における対応と訓練、4) 緊急時対応システム(緊急時環境影響予測システムの改良や運用方法など)
- ・[環境中物質動態予測]  
概要：再処理を対象として、現状の予測レベルと課題を明らかにし、今後どのような研究を重点的に行い、予測手法を確立するかを議論する。
- ・[環境の防護、廃棄物処分](09秋で「廃棄物処分の放射線管理」)  
1) 環境の防護(一例としてネズミやカエルの線量評価)  
2) 環境防護(廃棄物処分と関連させる)  
3) 放射性廃棄物に係わる長半減期核種の環境移行

## 部会のこれまでの企画

2000 年秋の大会（青森大学）

特別報告 9月17日(日)11:00-12:00, A会場（座長：稲葉次郎、環境科技研）

ICRPの最近の活動 松平寛通（放射線影響協会）

総合講演 9月17日(日)13:00-15:30, A会場

- (1) 原子力防災と保健物理（座長：小佐古敏荘、東大）
  - 1) 原子力災害と放射線防護 加藤和明（茨城県立医療大学）
  - 2) 事故時の放射線管理 野田喜美雄（核燃サイクル機構）
  - 3) 緊急時計画における防災対策とその範囲 本間俊充（原研）
- (2) 加速器の放射線管理（座長：近藤健次郎、KEK）
  - 1) 加速器解体と放射線管理 榎本和義（KEK）
  - 2) 大強度陽子加速器計画施設の放射線安全設計 笹本宣雄（原研）

2001 年春の年会（武蔵工大）

総合講演 3月27日(火)13:00-15:00; F会場

ICRPの新しい勧告の動向

基調講演「現在の検討事項に関する報告」 小佐古敏荘（東大）

コメント「低線量領域の管理と考え方」金子正人（放影協）、早田勇（放医研）

「個人線量の管理」占部逸正（福山大）、野口宏（原研）

一般シリーズ発表

「ICRP1990年勧告法令取り入れの放射線防護上の意義」座長 近藤（KEK）

- (1)取り入れに際して考慮されたこと；木名瀬（原研）
- (2)防護量と実用量；吉澤（原研）
- (3)内部被ばく管理における参考レベル；杉浦（東大）
- (4)内部被ばく線量評価コード(INDES及びIDEC)について；山口（原研）
- (5)ラドンの濃度限度；飯本（東大）

「ラドンを用いた低線量影響研究の現状と課題」座長 服部（電中研）

- (1)放医研ラドン実験施設の紹介；山田（放医研）
- (2)生物実験研究の現状と展望；米原（放医研）
- (3)疫学研究におけるラドン-222およびラドン-220測定；森嶋（近大）
- (4)問題点の整理と今後の課題；秋葉（鹿大）

2001 年秋の大会（北海道大学）

総合講演 9月19日(水)13:00-15:30 C会場

「環境モニタリングと環境動態研究」

座長 本間俊充（原研）

- 1) 大気海洋におけるグローバルフォールアウト核種の長期動態の研究  
- 長期観測結果と全球データベース化により得られたもの - 青山道夫（気象研）
- 2) 環境モニタリング結果のデータベース化 桐田博史（分析セ）  
座長 内田 滋夫（NIRS）
- 3) 環境モニタリング状況と環境安全研究 吉岡満夫（福井県原監セ）
- 4) 土壌 - 植物系における放射性核種および安定元素の移行と分布に関する研究  
塚田祥文（環境科研）
- 5) 環境モニタリングデータによる放射性核種の環境動態研究 高橋知之（京大炉）

2002 年春の年会（神戸商船大学）

総合講演 3月27日(水)13:00-15:00 B会場

「放射線線源の管理」

座長 飯田孝夫（名大）

- 1) 自然放射性線源 下 道国（NIRS）
- 2) 身元不明線源 甲斐倫明（大分看科大）
- 3) IAEAと諸外国の対応例 杉浦紳之（東大）

2002 年秋の大会（いわき明星大学）

部会企画 「緊急時における支援体制」

座長：内田滋夫（放医研）

- 1) 緊急時支援体制について  
野村 保氏（原子力緊急時支援・研修センター）
- 2) 地方自治体における緊急時支援体制  
西田亮三氏（茨城県生活環境部 原子力安全対策課）  
野村 保（原子力緊急時支援・研修センター）
- 3) 緊急時における原子力事業者の支援体制について  
森本研次氏（関西電力 原子力事業本部）
- 4) 緊急医療体制について  
明石真言氏（放医研 緊急被ばく医療センター）
- 5) 総合討論 15分

2003 年春の年会（アルカス S A S E B O）

総合討論 「国際放射線防護委員会（ICRP）の最近の動向と防護のキーワード」

司会進行 飯本武志（東大）

1. ICRP 各委員会におけるキーワードと議論のポイント  
主委員会及び第3 専門委員会 佐々木康人（放医研）  
第1 専門委員会 丹羽太貫（京大）  
第2 専門委員会 稲葉次郎（環境科研）  
第4 専門委員会 小佐古敏荘（東大）
2. キーワードに対するコメント  
「21 世紀の放射線防護体系（クラーク提案）」「環境の防護」「ステークホルダー」  
「個人の防護」「防護の最適化」等  
佐久間（核融合研） 内田（放医研） 酒井（電中研）  
宮崎（関電） 占部（福山大） 塚田（環境科研）
3. 総合討論 座長 小佐古敏荘（東大、部会長）

2003 年秋の大会（静岡大学）

合同企画セッション（放射線工学部会、保健物理・環境科学部会）

「放射線障害防止法改定の意義と現場の対応」（9月24日（水）13:00～17:00 C会場）

総合司会（KEK）三浦 太一

座長（九大）石橋健二

- (1) 新しい放射線障害防止法の概要 (文科省) 茶山 秀一
- (2) 新しい放射線障害防止法の論点とその考え方 (東大) 小佐古敏荘  
座長（東大）飯本武志
- (3) 新法令に対する現場での対応と今後の論点  
1) 全体論 (東北大) 中村 尚司  
2) 加速器施設 (KEK) 伴 秀一  
3) 加速器 & RI 施設 (理研) 上蓑 義朋  
4) RI 施設 (京大) 五十棲泰人  
5) RI 施設 (サイクル機構) 浅野 智宏  
6) 医療施設 (自治医大) 菊地 透
- (4) RI 廃棄物のクリアランス及び処分に係る課題 (原研) 大越 実  
座長（アイソトープ協会）河田 燕
- (5) 総合討論

2004 年春の年会（岡山大学）

合同企画セッション（バックエンド部会、保健物理・環境科学部会）

「放射性廃棄物地中処分と生態圏影響評価」（3月30日（火）9:00～12:00 F会場）

座長（放医研）内田滋夫、（原研）木村英雄

- (1) 放射性廃棄物処分における線量基準の考え方  
（東大）小佐古敏荘
- (2) 放射性廃棄物処分の安全評価における諸問題  
（原研）木村英雄
- (3) 廃棄物処分と環境防護  
（放医研）土居雅広

(4) 地層処分における生物圏評価のためのレファレンスバイオスフェアの考え方  
(原環機構)内藤守正

(5) 総合討論

2004 年秋の大会 (京都大学)

合同企画セッション (保健物理・環境科学部会、放射線工学部会)

「低線量放射線リスクと社会」(9月16日(木) 14:00~18:00 K会場)

第一部 司会:(三菱総研)佐藤理

「最近の低線量放射線影響研究の成果(1)生物学的研究」(京大)丹羽太貫

「最近の低線量放射線影響研究の成果(2)疫学的研究」(鹿児島大)秋葉澄伯

「放射線教育」(放射線教育フォーラム)松浦辰男

第二部 司会:(京大)高橋知之

「低線量放射線影響に関する社会の認知」(甲子園大)木下富雄

「低線量放射線影響と規制」(放医研)米原英典

「低線量放射線影響と放射線防護」(福山大)占部逸正

パネルディスカッション 司会:(東大)杉浦紳之

2005 年春の年会 (東海大学)

1. 総合講演 (保健物理・環境科学部会)

「討論:保健物理・環境科学研究における若手研究者の夢」(3月29日(火) 13:30~16:00, J会場)

座長:(原研)木名瀬栄、(京大)高橋知之

- |                                   |                  |
|-----------------------------------|------------------|
| (1)保健物理・環境科学研究の期待と抱負              | (原研)木名瀬栄         |
| (2)リスク認知研究                        | (文化女子大)斎藤聖子      |
| (3)放射性廃棄物研究                       | (電中研)佐々木道也       |
| (4)環境放射能研究                        | (環境科研)柿内秀樹       |
| (5)放射線検出器の研究開発                    | (富士電機)布宮智也       |
| (6)放射線管理の研究                       | (JNC)高田千恵        |
| (7)内部被ばく研究                        | (原研)横山須美         |
| (8)外部被ばく研究                        | (原研)高橋史明         |
| (9)放射線校正場の研究                      | (産総研)黒澤忠弘        |
| (10)放射線治療研究                       | (三菱総研)船曳淳        |
| (11)宇宙放射線研究                       | (放医研)保田浩志        |
| (12)日本の保健物理・環境科学研究に対するロシア若手研究者の期待 | (放医研)セルゲイ・トルマチョフ |
| (13)日本の保健物理・環境科学研究に対する中国若手研究者の期待  | (JNC)夏曉彬         |
| (14)日本の保健物理・環境科学研究に対する韓国若手研究者の期待  | (放医研)金ウンジュ       |

2. 総合講演 (保健物理・環境科学部会主催, 社会・環境部会協力)

「公開討論「放射線教育の現状と課題」」[一般公開] (3月31日(木) 13:00~16:00, A会場)

座長:(RI協会)二ツ川章二、(東大)飯本武志

- |   |                     |
|---|---------------------|
| (1)放射線教育の現状;各機関・組織の活動報告                       |                     |
| (2)放射線教育の成果分析;原文振による1900名の生徒(中学生)アンケート分析結果の紹介 |                     |
| 1)分析の背景と目的                                    | (原文振)藤井信幸           |
| 2)分析手法と結果                                     | (東工大)栗山直子           |
| (3)放射線教育の展望                                   |                     |
| 1)知りたがり始めた市民との交流から                            | (あるかエネルギーフォーラム)川西則子 |
| 2)中学・高校教諭の立場から                                | (神大学付中・高)中山知恵子      |
| 3)原子力・放射線専門家の立場から                             | (環境科研)石川敏夫          |
| 4)教育プログラムを立案、企画する立場から                         | (原文振)真壁佳代           |
| 5)興味を持ってもらう話し方とは                              | (原電)小川順子            |
| (4)総合討論                                       |                     |

2005 年秋の大会 (八戸工業大学)

総合講演 (保健物理・環境科学部会)

「原子力施設の環境影響評価における不確実性」(9月14日(木) 16:00~18:30)

- 講演 : 座長: 京都大学 高橋知之
- 講演 1 「環境影響の不確かさ・感度解析」  
日本原子力研究所 本間俊充
- 講演 2 「放射性廃棄物処分の環境影響評価における不確かさ」  
日本原子力研究所 木村英雄
- 講演 3 「一般重金属の土壌含有量基準に見る不確かさとその問題点」  
京都大学 米田 稔
- 講演 4 「環境移行パラメータの不確かさ」  
環境科学技術研究所 塚田祥文
- 総合討論 : 座長: 名古屋大学 飯田孝夫

2006 春の年会 (日本原子力研究開発機構大洗研究開発センター)

企画セッション (保健物理・環境科学部会)

「東アジア地域の総合的な放射線・放射能監視システムの構築」(3月25日(土) 10:00~12:00)

- 講演 : 座長: 名古屋大学 飯田孝夫
- 講演 1 日本海におけるロシアの廃棄物投棄及び原子力潜水艦の臨界事故  
日本原子力研究開発機構 外川織彦
- 講演 2 小型核兵器・放射性物質によるテロ  
札幌医科大学 高田 純
- 講演 3 東アジアの原子力開発の現状と日本の広域モニタリングの必要性  
名古屋大学 飯田孝夫

総合討論: パネリスト: 上記講演者3名

2006 秋の大会 (北海道大学)

9月28日(木) 9:30~12:00

企画セッション (保健物理・環境科学部会)

「炭素 14 の環境中移行研究の現状と今後の展開」

- 講演 : 座長: 名古屋大学 山澤弘実
- 樹木年輪を用いたセラフィールド再処理施設からの炭素 14 大気放出量の再評価  
日本分析センター 磯貝啓介
  - 閉鎖型生態系実験施設での C-13 を用いた大気・食物を介するヒトへの炭素移行実験計画  
環境科学技術研究所 多胡靖宏
  - 河川環境における粒子及び溶存態 C-14 の環境挙動  
北海道大学 長尾誠也
  - 森林炭素 14 循環と環境問題への展開  
日本原子力研究開発機構 小嵐 淳  
名古屋大学 山澤弘実
  - 炭素 14 環境中移行モデル化の現状と EMRAS での展開  
京都大学 高橋知之  
日本原子力研究開発機構 小嵐 淳

2007 春の年会 (名古屋大学)

3月28日(水) 13:00~14:30

企画セッション (保健物理・環境科学部会)

「自然放射線被ばくに関する放射線防護の動向」

- 座長: 福山大 占部逸正
- 自然起源の放射性物質の管理 放医研 米原英典
  - 航空機被ばくの管理 放医研 保田浩志
  - 宇宙飛行士の被ばくの考え方 三菱総研 岩井 敏
  - 職場と一般環境のラドンの対策 東大 飯本武志

2007 秋の大会 (北九州国際会議場)

9月29日(土) 13:00~14:30

部会合同企画セッション (核融合工学部会、保健物理・環境科学部会)

「核融合実験と放射線安全」

- 座長: 東大 小佐古敏荘
- ITER 計画と放射線安全 JAEA 大平 茂
  - JT-60 計画と放射線安全 JAEA 宮 直之

- |                |      |      |
|----------------|------|------|
| 3. 保健物理から見た核融合 | 東北電力 | 齋藤 実 |
| 4. 環境科学から見た核融合 | 九大   | 百島則幸 |

2008 年春の年会（大阪大学）  
 3月28日（金） 13:00～14:30  
 部会企画セッション  
 「再処理施設の環境影響評価」

- |                                   |            |       |
|-----------------------------------|------------|-------|
|                                   | 座長：原子力機構   | 本間俊充  |
| 1. 六ヶ所再処理工場におけるアクティブ試験と環境影響評価について | 日本原燃       | 佐々木耕一 |
| 2. 東海再処理施設における環境モニタリングの経験         | JAEA       | 武石 稔  |
| 3. 原子燃料サイクル施設に係る環境放射線等モニタリングの経験   | 青森県原子力センター | 齋藤輝夫  |

2008 年秋の大会（北九州国際会議場）  
 （9月5日（金） 13:00～14:30, J 会場）  
 「ICRP2007 年勧告のインパクト」

- 座長（東大）小佐古敏荘
- (1) ICRP 新勧告2007 年の要点（アイソトープ協会, ICRP 主委員会委員）佐々木康人
  - (2) ICRP2007 年勧告の国内法令への取り入れの検討状況について（文科省）桐生康生
  - (3) パネル討論（考慮すべき論点）（東大）小佐古敏荘 [進行], 上記講演者,  
 （東京電力）鈴木 晃, （放医研）米原英典

2009 年春の年会（東京工業大学）  
 （3月25日（水） 13:00～14:30, I 会場）  
 保健物理・環境科学部会企画セッション  
 「ヨウ素129 の測定技術の現状と環境中移行研究への応用」

- 座長（JAEA）外川織彦
- (1) ヨウ素129 に関連する環境および地球化学的研究（学習院大）村松康行
  - (2) 文科省マニュアル“ヨウ素129 分析法”の改訂（分析セ）磯貝啓介
  - (3) ヨウ素129 の AMS 測定及びその応用研究（東大）松崎浩之

2009 秋の大会（東北大学）  
 （9月18日（金） 13:00～14:30, A 会場）  
 部会企画セッション（保健物理・環境科学部会）

- 「廃棄物処分の放射線管理」
- 座長（放医研）米原英典
1. 日本における放射性廃棄物処分の安全評価（電気事業連合会）加藤和之
  2. 廃棄物処分における国際安全基準とその問題点（東京大学）小佐古敏荘
  3. 総合討論